

2021（令和3）年度 大阪府内地域連携プラットフォーム 各事業の中期計画に係る進捗および評価について

※2017年～2021年度までの中期計画に基づき評価を行う。

評価基準

	評価内容及び基準
IV 各年度の計画が特に進捗している	・達成度が計画を大幅に上回る場合 ・当該年度中に予定より早期に実施した場合
III 各年度の計画が進捗している	・達成度が計画どおりと認められる場合 ・当該年度中に実施した場合
II 各年度の計画が概ね進捗している	・達成度がやや下回るものの概ね計画どおりと認められる場合
I 各年度の計画の実施にあたって課題がある	・達成度が計画より大幅に下回る場合 ・当該年度中に実施できなかった場合 ・計画設定そのものに問題がある場合

テーマ	中期計画(2017～2021年)				2021(令和3)年度 事業評価案			
	課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	計画	実績	評価(現況、2月14日時点)	
高大連携	1 大学と高校の有機的な接続・連携の強化	・高大の連携・接続の課題を継続的に検討する。	(取組1) <高大連携・接続の検討> ・高大連携・接続にかかる課題をテーマとして「フォーラム」を継続的に開催する。	(取組1の活動指標) フォーラム：年1回開催	【取組1】 高大連携・接続の検討	・高大の喫緊の課題をテーマとしたフォーラムを継続開催する。(年2回を上限) (国の方針も踏まえて、参加者が参加しやすいテーマを検討する。)	<高大連携フォーラム> (第1回)2021年10月開催 参加者数：133名  (第2回)2022年3月開催予定 現在、募集中	III  ・IT人材の育成が急務とされる中、高大関係者において注目度の高い「情報」科目について2回にわたり取り扱った。有識者から最新情報を共有いただき、「情報」科目の動向把握に加え、今後の高大接続のあり方について共に考える有意義な機会となった。  ・オンライン開催によってこれまで参加が難しかった府外の高大関係者にも学びの機会を提供でき、第1回には全国から過去最多の177名の申込み、133名の参加者を得たことも高く評価できる。
		・プラットフォーム形成大学にかかる情報の一元的な発信	(取組2) <情報発信> ・オープンキャンパスや見学会の日程等を一元管理し、ホームページで情報発信する。	(取組2の活動指標) ・プラットフォーム形成大学からWEBシステムを通じて適宜情報を収集し、ホームページで発信する。  ・各教育委員会を通じて大阪府下の全高校に周知する。		【取組2】 情報発信	・プラットフォーム形成大学の魅力発信のために、大学コンソーシアム大阪のホームページを活用し、オープンキャンパス開催情報をはじめとする高校生向け情報に加え、保護者向けに受験校選びに役立つ情報を集約・継続的に発信し、適宜改善を図る。  ・共通大学案内ブックレットに各大学の学生コメントを掲載するなどし、高校生にとって身近な資料となるようさらに充実させるとともに、府下の教育委員会等の協力を得て広く配布する。	・受験生向け、保護者(高校)向けに区分したプラットフォーム形成大学情報を最新版へ更新した。  ・府下の高校2年生を対象にプラットフォーム形成大学情報を掲載したハンディブックレットを作成し、約8万部配布した。 (大阪府教育委員会等の協力により2021年6月に配布)  ・HP上にてプラットフォーム形成大学合同説明会を開催し、併せて高校生の進路検討にかかる動向把握等を調査した。  ・上記3点の取組にあたり、WEBシステム等を使用してプラットフォーム形成大学の情報を収集した。
大学間連携	2 単位互換プログラムの充実	・単位互換科目をより多くの学生が受講できる戦略的な環境を整備する。	(取組1) <単位互換の充実> ・単位互換科目を一般教養科目や卒業単位として認められるよう、全プラットフォーム形成大学に働きかける。  ・近隣大学間での単位互換を推進するよう、検討・調整を図る。	(取組1の活動指標) ・前年の出願者数の10%増加を目指す。	【取組1】 単位互換の充実		・出願を紙・Webの選択方式を引き続き採用し、大学や学生のニーズに柔軟に対応できるようにする。  ・学生や教職員に単位互換の内容や講師像、効果がわかるよう、情報発信の方法を工夫する。	【出願者数】 延べ638名 (前年 671名 前年比:95.1%)  ・オンライン科目の充実など、授業の実施形態の多様化を図り、学生が受講しやすい環境を整備した。
		・学生のニーズに合った新たなプログラム科目の実施	(取組2) <プログラムの充実> ・低学年の学生が交流し合えるプログラムを企画・実施する。  ・学生のニーズに合った特徴的なプログラムを開発する。  ・各大学の寄附講座を単位互換科目として提供していただくよう調整を行う。	(取組2の活動指標) ・プラットフォーム形成大学間で独自開発した単位互換科目を2科目以上開講する。		【取組2】 プログラムの充実	・単位互換科目化を前提とした「AI講座」プログラムを構築する。  ・多彩な科目の提供や学生の受講機会の拡大を目的に、南大阪地域大学コンソーシアムとの連携、また今後の単位互換を見据えた検討を進める。	<AI講座> 【受講者数】31名 ※大学教職員の聴講者を含む

テーマ	中期計画(2017~2021年)				2021(令和3)年度 事業評価案			
	課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	計画	実績	評価(現況、2月14日時点)	
キャリア支援	3 ・ 独立 インター ンシップ プログラ ムの更 なる充 実と	・参加学生の就業意識と企業に対する関心を高め、地元(大阪)に定着させる。	(取組1) <就業体験型インターンシップ> ・産業界との接続の強化、各種団体や中小企業・ベンチャー企業などの特長ある受入先とのインターンシップの拡大、対象学生の学年の引き下げの検討、海外インターンシップ実施の検討などを行う。 ・事務局に受入先の開拓やコーディネートなどのできる専門員の配置を検討する。	(取組1)の活動指標 ・インターンシップ先の受入れ10%増(受入企業・団体数) ・専門員の配置:1名	【取組1】 就業体験型	・プラットフォーム形成大学でのインターンシップ実施にかかる補完的役割を継続する。 ・産官とも連携し、大阪に根差した企業や中小企業、ベンチャー企業など特長ある企業等を受入先として拡充する(但し、受入数よりも質向上に重点を置く)。 ・昨年度試行した就活クエストや1・2年生向けプログラムの内容を踏襲し、将来働くことや早期から在阪企業の魅力に触れる機会を提供するオンラインプログラムを検討・実施する。	・就業体験型インターンシップ【参加学生数】 出願者154名:実習者89名【参加企業・団体数】 エントリー59社:受入34社 ・就活クエスト in OSAKA【参加学生数(全3回中2回実施時点)】 14大学延べ21名(2022年入学予定者1名を含む) (うち会員外3大学3名) 【協力先(全3回)】 大学1、企業3、団体1【企画・実施に係る参画教職員数(全3回)】 13名	Ⅲ ・就業体験型インターンシップ 2020年度にコロナ禍の影響で中止したが、今年度はオンラインを活用しながら再開。企業・団体の実習においてもオンライン研修の導入も奨励し進めた。募集にあたっては大阪府商工労働部の協力を得た。途中、大阪府下への緊急事態宣言発令等を受け、受入企業・団体数、実習者数ともに近年の平均より大幅に減少したものの、プログラムの満足度は企業・団体、学生共に90%以上と高い水準を維持した。研修内容の質的向上の観点から、需要に伴い増加が予想されるオンラインプログラムについて、今後、一定のガイドライン設置に向けた検討が必要と考える。 ・就活クエスト in OSAKA 2020年度に就業体験型インターンシップの代替としてオンラインで実施した本プログラムは、同年に実施した1・2年生向けプログラムと統合し、低年次学生を主対象としたオンラインプログラムとして全3回実施予定(2022年2月現在、第2回まで終了)。早期キャリア教育の一環として、在阪企業・団体の魅力に触れる機会を提供する。第3回(3月開催)は大阪商工会議所と共催し、大阪企業家ミュージアムの見学など、一部実地開催を予定している。 第1回、第2回の参加者アンケートは概ね好評で、「多角的な情報を得ることができた」、「社会人のリアルな声を聞くことができた」等の多くの感想が寄せられ、事業目的を概ね達成できた。
		・在阪の企業や官公庁等とのインターンシップを拡充することで、有為なプログラムを充実させる。	(取組2) <プロジェクト型インターンシップ> ・自治体や産業界などと連携して既存プログラムの再編・新規企画の立案を検討する。 ・プラットフォーム形成大学における教職員の参画の可能性について検討する。	(取組2)の活動指標 ・プロジェクト型インターンシップを毎年度1つ以上実施する。 ・プラットフォーム形成大学からプロジェクト型インターンシップへの参画教職員数:2名		【取組2】 プロジェクト型	・大阪市西淀川区役所と連携し、昨年度のオンライン企画を踏まえた地域課題解決のためのプロジェクトを実施する。 ・プログラムの質保証と担当教職員の負担軽減のため、専門人材を登用する(コーディネーターの業務委託)	・にしよみライボ構想プロジェクト【参加学生数】 7大学10名【協力】 大阪市西淀川区および区内団体 ・舞洲スポーツイノベーションプロジェクト【参加学生数】 7大学10名【協力】 舞洲プロジェクト(大阪エヴェッサ、オリックス・バファローズ、セレッソ大阪、大阪市)との共催により実施。プロバスケットボールチーム「大阪エヴェッサ」が抱える集客策の課題に対し、学生ならではの発想を生かしたビジネスプランを考え、提案・実施する「舞洲スポーツビジネスコンテスト」に挑戦中である(2022年2月末終了予定)。昨年11月に行われた企画プレゼン大会(中間発表会)では、大学コンソーシアム大阪より参加した2チームが上位1、2位の評価を得て、2月末に行われる最終プレゼン大会に向け、順調に活動を続けている。本プログラムは多方面の協力を得て、大阪の産官学ならではのプログラムとしての実施が叶う形となった。 なお、コーディネーターは専門的な知見と今年度は試行的実施といった観点から舞洲プロジェクトのコーディネートを務める株式会社JAEIに業務委託し、参画教職員1名に代える形とした。
国際交流	4 教職 員を 目 指 す た め の 対 応 機 会 の 提 供 生 や	・グローバルに活躍できる学生やそれを支える教職員の学びの場の更なる機能の充実を図る。	(取組1) <他国・他地域との交流> ・台湾財団法人高等教育国際合作基金会社との交流を継続し、高等教育会議(シンポジウム)を開催する。 ・学生交流について、プラットフォーム形成大学のニーズ調査や課題を検討する。 ・海外からの留学生受け入れのノウハウ等を学ぶ機会として職員交流を行う。	(取組1)の活動指標 ・高等教育会議(シンポジウム)の開催(2年に1回) との交流が一時中断中。 ・交流再開に向けた双方の意向の整理と具体的な交流の方策についての検討を継続する。	【取組1】 他国・他地域との交流	・新型コロナウイルス感染拡大に伴い、FICHET(台湾財団法人高等教育国際合作基金会社)との交流が一時中断中。 ・交流再開に向けた双方の意向の整理と具体的な交流の方策についての検討を継続する。	・新型コロナウイルス感染が収束していないことを受けて、交流事業については一律中止。	・左記の理由のため、未実施のため評価なし。 ・現在、次期中期計画策定に向けて、交流のあり方を含め抜本的に見直しを進めている。
		・グローバル人材育成事業	(取組2) <グローバル人材育成事業> ・グローバル人材育成講座、国際学生・留学生の国際交流イベントを継続実施する。 ・上記講座の単位互換科目化を目指し、プラットフォーム形成大学間で検討を行い、案を作成する。 ・プラットフォーム形成大学の学生や教職員に広く周知するため、リーフレットを作成し、配布する。	(取組2)の活動指標 ・プラットフォーム形成大学の10%の大学が参加。 ・単位互換科目としてのプログラムの開発と単位付与大学の選定を行う。 ・作成したリーフレットを全てのプラットフォーム形成大学へ配付する。(毎年1回)		【取組2】 グローバル人材育成事業	<グローバル人材育成講座> 学生英語プレゼンテーションコンテストと連動するテーマのプログラムを実施し、オンライン開催など学生にとって受講しやすい形態の講座を提供する。 2月実施分(2021年2月~3月の2回プログラム)現在、募集中	Ⅲ (グローバル人材育成講座) ・SDGs実践講座~2030年の世界を目指して、「私たち」のアクションを考えよう~」を4回連続プログラムとして開講した。コロナ禍の影響によりオンラインでの開講となったが、学生生活に一定の制限がある学生に対し、オンラインで自発的に学べる機会を提供できた。 ・本講座を受講した学生2名が、学生英語プレゼンテーションコンテストに発表者および運営メンバーとしてそれぞれ参加した。目指していた本講座とコンテストの連動ができた点は高く評価できる。 ・今回のオンライン開催への移行は会場(梅田)から遠方のため来場が難しかった学生も受講機会が得られ、門戸をさらに広げることに繋がった。単位互換科目化の検討にあたり、会場が課題の一つとなっていたことから、この経験を生かし、更なる検討を進めていきたい。
8 内 なる 進 国際 化の 推	・受入留学生が、安心して生活、修学、就職に取り組めるように、環境整備を行う。	(取組1) <留学生の環境整備> ・留学生の地域社会とのつながりづくりを支援する方策を検討する。 ・留学生と国内学生の交流拡大を視野に入れて、留学生の事業への参加促進策を検討する。	(取組1)の活動指標 ・SUCCESS-Osakaの活用も視野に入れながら、留学生への支援策を策定する。	【取組1】 留学生の環境整備	課題4 取組2の「学生英語プレゼンテーションコンテスト」と同じ	課題4 取組2の「学生英語プレゼンテーションコンテスト」と同じ	※事業に関しては、課題4 取組2の「学生英語プレゼンテーションコンテスト」と同じ ・コロナ禍の影響により留学生においては国内学生との交流が一層難しい状況にある中、本コンテストや参加者間の意見交換の場を通じて交流機会を提供できたことは留学生支援の観点においても大きな意義があった。 ・コンテストの開催にあたりJASSO助成金の獲得や、本コンテストが留学生支援コンソーシアム大阪の「留学生ウィーク」のアフターイベントに位置付けられるなど、大阪地域における留学生支援活動の本格化に向けて強い後押しが得られた。	

テーマ	中期計画(2017～2021年)				2021(令和3)年度 事業評価案				
	課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	計画	実績	評価(現況、2月14日時点)		
地域連携	5 学生主体の地域連携促進による	・プラットフォーム(大学コンソーシアム大阪)独自の連携事業を確立し、地域連携を推進する。	(取組1)＜地方自治体からの受託事業＞ ・プラットフォーム形成大学のメリットになることを判断基準とし、受託の可否を決める。  ・これまでの受託事業での経験を活かし、自治体や産業界にアピールすることにより、更なる受託事業を開拓する。	(取組1の活動指標) ・大阪市や大阪府(府下自治体含む)等の受託事業先を開拓する。 訪問自治体数:3件	【取組1】 地方自治体からの受託事業	取組2「地域連携情報交換会」に運動	取組2「地域連携情報交換会」に運動	取組2「地域連携情報交換会」に運動	
			(取組2)＜地域連携事業＞ ・「地域連携 学生フォーラムin大阪」がより一層学生主体の企画・運営の取り組みとなるよう、環境整備を行う。また、自治体や産業界に積極的にPRし、新たな地域連携創出の機会を提供する。  ・大学や自治体の交流を主とした「地域連携情報交換会」を開催する。  ・自治体と連携強化を図るためのニーズ調査や部会間との連携を通じて、地域連携のためのコーディネート機能を強化する。  ・既存の地域連携データベースを自治体のニーズに対応できるように再構築する。	(取組2の活動指標) ・参加大学数:20大学以上(プラットフォーム形成大学の50%)  ・自治体と共同事業に関する意見交換の場を設定する。  ・地域連携データベースの改修の具体化		<地域連携 情報交換会> ・昨年度実施した自治体ニーズ調査をもとに、プラットフォーム形成大学と自治体関係者による情報交換会を企画・開催する。	【参加者数】 大学関係者20名 自治体関係者8名 企業・団体関係者5名 計 33名		(地域連携 情報交換会) ・大学と自治体における地域連携担当者間の情報交換を目的にエリア毎の開催を予定していたが、今般の社会情勢を受けフォーラム形式でオンラインにて開催。  ・コロナ禍で地域活動そのものが難しい状況にありながらも、官・学・民の先行的な好事例を共有することで、新しい地域連携活動のあり方について提言できた。  ・オンライン開催により大阪以外からの参加者があり、大阪で行われている地域活動の発信とともに、地域を超えた連携のきっかけの場づくりに寄与できた。
						<地域連携 学生フォーラム> ・学生主体のフォーラムとして、企画や発表に学生が積極的に関わりそれぞれの学びに繋がる内容として推進する。 ・新たな連携創出の機会提供を目指し、自治体や産業界にも積極的にフォーラムの成果などのPRを進める。	【発表学生数】 7大学1団体 49名 【発表数】13事業 【学生運営メンバー】6大学9名 【Youtube観覧者:92名】 〈午前の部〉245回再生 〈午後の部〉123回再生 ※閲覧状況:11月2日現在  参画大学数33.3% (13大学/会員39大学)		IV
				<プラットフォーム形成大学 中高生向け夏休み講座の情報発信> ・プラットフォーム形成大学が夏休みに開催する中高生向け講座の情報を取りまとめ、ポスターやリーフレットを通じて大阪府下の中学校、高校へ周知する。 ※本取組は今般の社会情勢から「大阪中高生サマー・セミナー」の開催が難しいことを受けて、暫定的に進めるものとする。	(中高生向け夏休み講座の情報発信) 【参画大学】 10大学 【掲載講座数】 50講座  (高校生の学び応援プロジェクト・新) 【参画大学】 20大学	(プラットフォーム形成大学 中高生向け夏休み講座の情報発信) ・大阪中高生サマー・セミナーの実施に代えて、プラットフォーム形成大学が実施する中高生向けの夏休み講座情報を大学コンソーシアム大阪のHPに集約・掲載し、情報発信に努めた。結果、大学からは単独では周知が難しい先にも情報が届き、参加者が得られたなどの声が寄せられ、一定の成果をあげることができた。  (高校生の「学び」応援プロジェクト) ・中高生向け夏休み講座の情報発信のほか、大阪の大学の魅力発信の一環として、大学の模擬授業を大学コンソーシアム大阪のHPに集約・掲載し、高校生にオンライン受講の機会を提供する試行事業を進めた。結果、従来の情報発信方法以外の新たな方策を模索することができた。  ・上記の両事業に関して、中高生への周知のため、大阪府教育委員会等の協力を得て、各校にポスターを配布を行い、周知した。			
研修	9 SD研修の更なる充実	・プラットフォーム形成大学の教職員の能力・資質向上を目指し研修を実施する。	(取組1)＜SD研修の戦略的な実施＞ ・プラットフォーム形成大学のニーズを踏まえて、初任者研修を充実させるとともに、研修プログラムを開発し、研修を行う。  ・プラットフォーム形成大学間で人材育成に活躍できる職員を育成する研修を企画・実施する。  ・「大学におけるリスクマネジメント」等をテーマとしたプラットフォーム形成大学間での定期的な勉強会を開催する。	(取組1の活動指標) ・初任者研修をはじめとした、各種研修・勉強会の継続実施・参加者10%増  ・研修プログラムを企画し、毎年1回以上実施する。  ・勉強会を毎年3回以上開催する。	【取組1】 SD研修の戦略的な実施	<各種研修> 「初任者研修」をさらに充実させるとともに、時宜に応じた研修を検討・実施する。	<各種研修> ・従来の参集型に代えて、オンラインで開催。  初任者研修 今年度は、講義形式を3回にわたって開催。 【参加者数】 延べ39大学 90名 (うち会員外 7大学8名)  前年16大学36名 (うち会員外2大学3名)	III	
				<サロン (SD勉強会)> プラットフォーム形成大学の教職員を中心とする自己研鑽や交流の場としての勉強会を継続実施する。		インストラクショナル・デザイン研修 ※2022年3月3日開催予定 【申込者数】 現在募集中  <サロン> 計3回開催 【参加者数】 延べ28大学71名 (うち会員外6大学7名) 平均参加者数23.7名 前年比72.4%  前年延べ51大学98名 (うち会員外14大学14名、その他3名) 平均参加者数32.7名	(研修全般) ・すべての研修について本部会推進委員が講師を担い、複数大学の連携による研修を企画・実施できた。 ・今般の情勢を受け、今年度もすべての研修をオンラインで開催した。昨年の経験を生かし、オンラインの利点を活かした研修が実施できた。 ・いずれの研修も会員外の参加者にも門戸を広げ、大学コンソーシアム大阪の研修を広く活用してもらう機会提供に寄与できた。  (初任者研修) ・今年度は、昨年2日(各日半日)にわたって行った研修を、大学職員として必要な基礎知識を3つのテーマに分けて学ぶ研修に再編し、参加しやすい形式とした。 ・各回の受講者の9割から研修内容に対して高評価と、一定の成果が得られた。  (インストラクショナル・デザイン研修) ・昨年に引き続き、研修を担当する職員のためのスキルアップ研修として3月に実施予定。 ・教育活動の効果・効率・魅力を高めるための理論・モデル・技法の集大成であるインストラクショナル・デザインの基礎の習得と研修を企画し実施するなかでそれらをどのように活用できるかを実際の研修計画を題材に考えることを目的としている。		
									(サロン) ・今年度は「学生支援」をテーマに3回開催した。グループワークを中心に行い、各回のテーマに沿ったそれぞれの対応状況や悩みを共有する機会を提供することができた。  ・サロンは特にオンラインとの相性が良く、プラットフォーム形成大学の教職員のほか、全国からも広く参加者を得ることができた。  ・参加者からはさらなる交流の機会を求める声や、テーマごとに複数回開催を希望する声も寄せられるなど、今後の開催への期待や内容に好評を博している点も高く評価したい。

テーマ	中期計画(2017~2021年)				2021(令和3)年度 事業評価案		
	課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	計画	実績	評価(現況、2月14日時点)
6 ・学生ボランティア事業の充実		・学生ボランティアの育成とゴールデン・スポーツイヤーズ等における学生ボランティア事業を充実させる。	(取組1)＜国際イベントへの学生参加の検討＞ ・ゴールデン・スポーツイヤーズ(2019-2021)による外国人来訪の増大に伴い、学生による通訳やイベントサポートなどのボランティアの派遣に関し、本プラットフォームとしての参画方法を企画・立案する。  ・大阪国際万博(2025年度)誘致にあたり、本プラットフォームとしての参画の可能性について検討する。	(取組1)の活動指標 ・学生ボランティアの派遣に関する本プラットフォームとしての方針・企画案の策定及び実施	【取組1】 国際イベントへの学生参加の検討	・学生ボランティアの派遣に関する本プラットフォームとしての方針・企画案の策定及び実施	IV  (オンラインプラットフォーム構築) ・コロナ禍においても学生が主体的に活躍できる場を創出するため、オンラインによる学生ボランティアプラットフォームを構築した。 学生生活に一定の制限を強いられる同じ学生同士が交流できる場としての座談会や、コロナ禍で学ぶ高校生に向けて、大学生生活のリアルを紹介するオンラインオープンキャンパスなど、学生が主体的に企画・運営し、いずれも好評評価を得られた。
			(取組2)＜観光・集客にかかる学生参加の検討＞ ・自治体からのニーズに基づき、観光・交流にかかる事業企画などについて、本プラットフォームとしての参画方法を企画・立案する。	(取組2)の活動指標 ・観光・集客や子ども支援にかかる学生参加の企画案の策定			
7 ・社会との多様な接点の創出による		・産業界や自治体と学生との協働の機会をコーディネートする。	(取組1)＜学生による企画・運営事業の創出＞ ・自治体や産業界などとの協働による学生の事業企画について、本プラットフォームとして自治体や産業界などにアプローチする。	(取組1)の活動指標 ・学生ボランティアの派遣に関する本プラットフォームとしての方針・企画案の策定及び実施	【取組1】 学生による企画・運営事業の創出	(AI講座の実施) 2019年度に試行したプログラムをもとに、単位互換科目としての展開を見据えたプログラムを構築、実施する。  (起業インターンシップ) (公財)大阪産業局と連携した起業インターンシップの実施を継続する。	IV  (AI講座) 2019年度に試行したプログラムを、オンラインにて開講(6月)。 【受講者数】31名 ※大学教職員の聴講者を含む  (起業インターンシップ) ・大阪イノベーションハブとの連携により3月実施予定。  ・起業インターンシップにてビジネスアイデアソンを実施し、成果発表会を開催し、検証予定。
			(取組2)＜学生による成果発表の場の創出＞ ・本プラットフォームが支援するアクティブ・ラーニングの成果の発表について、広く社会に発信できる仕組みを具体化する。	(取組2)の活動指標 ・観光・集客や子ども支援にかかる学生参加の企画案の策定		【取組2】 学生による成果発表の場の創出	
10 ・その他						(公開講座) (第1回)「就職支援」(10月開催) 【参加者数】27名 (第2回)「コロナ対策」(10月開催) 【参加者数】55名  (活動報告会)(10月開催) 【参加者数】36名  (公開講座等の継続開催) ・プラットフォーム主催の公開講座や社会人向け講座を検討・開催する。  (共同IRの実施) 新入生対象薬物意識調査(25大学12,425人が回答)に基づくIRをプラットフォーム協議会分科会1にて実施、公表。(10月)  (リカレントプログラムの実施) 受講者10名  ・日本インターンシップ学会関西支部研究会の共催(12月)	IV  (公開講座) ・今年度は就職困難層(発達障がいや発達グレー層)の学生の就職支援やコロナ対策などコロナ禍で特に関心の高いテーマにて開催し、大学以外の参加者もあり有意義な機会とすることができた。  (活動報告会) ・プラットフォームの3年間にわたる活動状況や来年度から始まる次期中期計画の策定に向けた方向性など広く発信することができた。  (新入生対象薬物意識調査と共同IRの実施) ・今回初の試みとして、プラットフォーム形成大学に新たに入学した学生の薬物に対する意識調査や啓発活動を共同で実施できた。 ・また、共同IRによって若者が直面する深刻な状況に対しプラットフォームとして課題解決に向けた検討に着手できたことは高く評価できる。  (リカレントプログラムの実施) ・榊アカデミック・レボの協力により、社会人を対象としたマイクロソフトオフィスペシャリスト(MOS)資格の取得講座を企画・実施した。社会人が受講しやすいオンデマンド形式のプログラムを提供し、定員10名のところ、募集開始早々に定員を充足するなど、ニーズに即した展開ができた。 また周知にあたっては大阪商工会議所の協力を得られたことも意義深い。  (日本インターンシップ学会関西支部研究会の共催) ・岐阜のNPO法人G-netや和歌山大学の地域に根差したインターンシップ活動の好事例を共有・広く発信することができた。